（その2）

特定燃料体挿入報告書

事業所コード	施設コード	核燃料物質計量管理区域コード	報告期間 年月日から 年月日まで	報告番号	エントリー行数 挿入データ	エントリー行数 注釈データ	
1 4	5 8	9 12	13 FROM 18 19 TO 24	25 28	29 30	33 34	63 77 80
（注４）	（注５）	（注２）	（注3）	（注１）	（注６）	（注７）	I

核燃料物質計量管理区域コード	報番	告号	エントリー番号	データ継続コード	挿入年月日	バッチ名	注釈コード	データ修正 報番	告号	エントリー番号
1 4	5 8		9 10	11	12 17	21 28 31 38 41 48 51 58 61 68	73	74 77		78 79 80
（注２）	（注１）		（注８）	（注９）	（注10）	（注11）	（注12）	（注13）		
										J
										J
										J
										J
										J
										J
										J
										J
										J
										J
										J
										J
1 4	5 8		9 10	11	12 17	21 28 31 38 41 48 51 58 61 68	73	74 77		78 79 80

頁中　頁

注１　国際規制物資の使用等に関する規則第48条第６項の規定に基づき提出する全ての報告書につき、ＭＢＡごとに「０００１」から欠番、重複のない一連の番号を記載すること。
２　別記様式第４の注２の例により記載すること。
３　特定燃料体を原子炉内に挿入した日を含む月の始まりと終わりの年月日を記載すること。
４　別記様式第４の注４の例により記載すること。
５　別記様式第４の注５の例により記載すること。
６　別記様式第４の注６の例により記載すること。
７　別記様式第４の注７の例により記載すること。
８　別記様式第４の注９の例により記載すること。
９　既に報告したデータを削除する場合は「Ａ」と記載すること。
10　特定燃料体を原子炉内に挿入した年月日を記載すること。
11　原子炉内に挿入した特定燃料体に関し、計量管理規定で定めた方法により付したバッチの番号を記載すること。
12　別記様式第４の注25の例により記載すること。
13　別記様式第４の注26の例により記載すること。
備考１　この用紙は、日本産業規格Ａ４のつづり込み式とすること。
２　この報告書は、ＭＢＡごとに別葉で作成すること。